

咬合誘導では「いつ、なにを、なぜおこなうか」

坂井小児歯科医院

院長 坂井 正彦



■ 略歴

- 1968 日本歯科大学歯学部卒業
- 日本歯科大学矯正学教室小児歯科 助手
- 1971 日本歯科大学小児歯科学教室 助手
- 1974 歯学博士（日本歯科大学）
- 日本歯科大学小児歯科学教室 講師
- 1976 日本歯科大学小児歯科学教室 助教授
- 1984 静岡県伊東市にて小児歯科専門開業
- 日本歯科大学小児歯科学教室 非常勤講師
- 1988 日本小児歯科学会認定医
- 2001 日本歯科大学小児歯科学講座 非常勤講師
- 現在
- 坂井小児歯科院長
- 日本歯科大学小児歯科学講座 非常勤講師
- 日本小児歯科学会 監事
- 日本歯科小児歯科学会中部地方会 副会長
- 中央歯科衛生士調理製菓専門学校 講師

咬合誘導という小児歯科臨床における理念が発表されて40年が過ぎました。時の流れは治療材料等を進歩させ、さまざまな小児の治療方法が変化してきました。今、40年が過ぎ、咬合誘導という言葉も変わりつつありますが、その理念はまったく変わっていません。

わたくしは、小児歯科と矯正歯科の重なり合う部分で行なわれる処置を、いわゆる「咬合誘導」と考えています。咬合誘導は本来もっと広範囲な意味合いを持っていることを、「咬合誘導」という言葉を提唱した深田先生からお聞きしています。

わたくしが行なってきた咬合誘導の処置が、その後どうなったかについてはすでに発表してきました。その結果にもとづき咬合誘導の考え方、進め方について、各時期の治療目標を示しながら発表してきました（表）。そして、早期治療の難しさを経験しながら咬合誘導を行ない、現在に至っています。咬合誘導は「点」での治療ではなく「線」の治療です。発育の予測は難しいですが、咬合誘導は発育変化に対応した処置をすることと考えています。

今回は、今までの臨床経験をもとに

咬合誘導では

1. 発育期の歯列咬合では何をみるか（歯列弓の副径や排列）
 2. 乳歯列、混合歯列では何を行なうか（乳犬歯の Slicing や Trimming）
 3. 保険処置をどのように考えるか（第1大臼歯は近心移動をさせない）
- について述べていき、咬合誘導をどう捉えるかについて考えていきたいと思ひます。

咬合誘導のステージ

ステージ	時期	治療目標	処置の内容
咬合誘導前期	乳歯咬合完成まで 0~2歳	咀嚼能力の獲得	授乳や離乳、離乳食の指導 (摂食指導)
第1期の咬合誘導 前期 後期	乳歯列期 第1大臼歯の萌出期 3~4歳 5~6歳	乳歯咬合と機能を健全に維持 顎関係の改善 第1大臼歯の誘導	齲蝕治療、保険 反対咬合、交叉咬合 口腔習癖の除去（開咬） 第1大臼歯の異所萌出
第2期の咬合誘導	切歯の交換期 7~8歳	切歯の交換期を注意深く観察し、 正常な被蓋・排列の獲得をめざす	切歯の咬合の異常の処置 口腔習癖の除去（開咬）
第3期の咬合誘導	側方歯群の交換期 9~11歳	側方歯群の交換を注意深く観察し、 第1大臼歯の正常咬合を維持する	交叉咬合 第1大臼歯の遠心移動
第4期の咬合誘導	永久歯列期 12歳~	軟組織・硬組織の形態と機能の 調和をめざす	本格矯正

(坂井,1985)